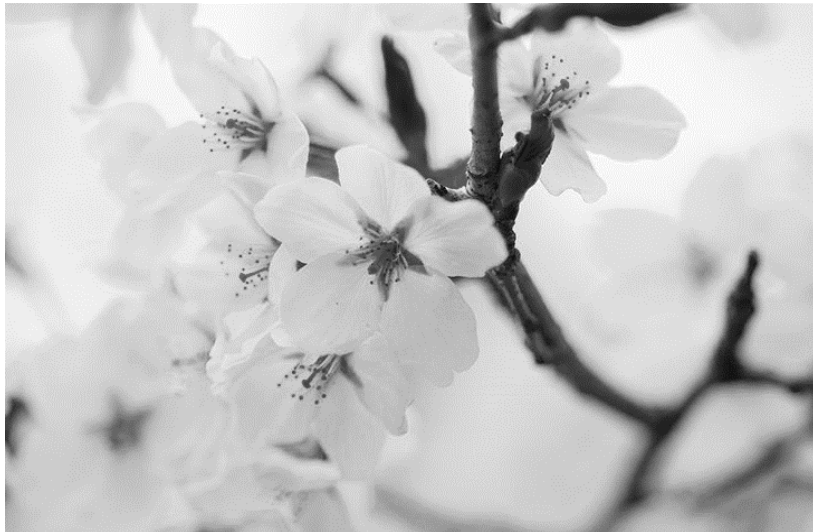


◆ 目黒区 ◆

中小企業の景況

令和3年度第4・四半期
(令和4年1~3月)



目黒区 産業経済部 産業経済・消費生活課

目 次

1. 都内中小企業の景況	1
2. 目黒区内中小企業の景況（令和4年1～3月期）	2
(1) 今期の特徴点	2
(2) 今期の景況と来期の見通し	4
製造業	4
卸売業	8
小売業	11
サービス業	14
建設業	17
(3) 調査員のコメント	20
3. 日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（令和4年3月）	23
4. 特別調査「原材料・仕入価格の上昇による中小企業への影響について」	26
5. 中小企業景況調査 比較表・転記表	28

調査の概要

1. 調査時期 令和4年1～3月期（四半期毎実施）
2. 調査方法 面接聴取調査
3. 調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製 造 業	-	71
卸 売 業	-	19
小 売 業	-	37
サ ー ビ ス 業	-	47
建 設 業	-	31
合 計	-	205

※新型コロナウイルス感染拡大にともない、調査にご協力いただけない事業所が多数生じていることから、「調査対象事業所数」は把握不能となっております。

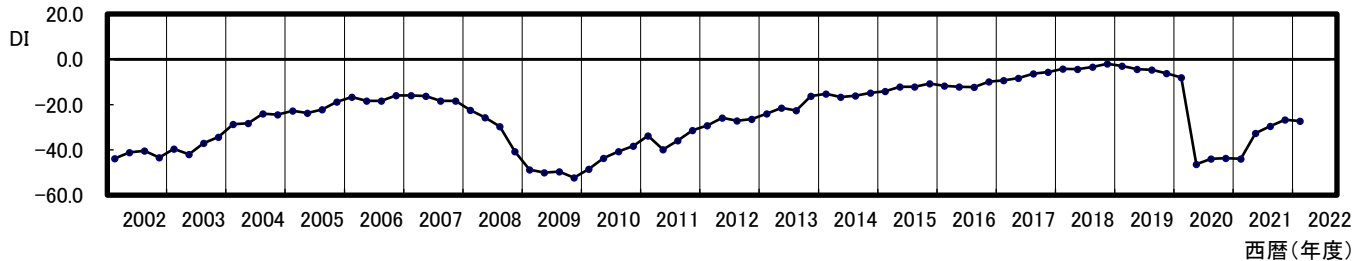
調査実施機関 一般社団法人東京都信用金庫協会
分析実施機関 株式会社東京商工リサーチ

1. 都内中小企業の景況（令和4年1～3月期）

（一般社団法人 東京都信用金庫協会調べ）

オミクロン株の急拡大により景気回復は足踏み状態

都内中小企業景況・6業種合計 DI



西暦(年度)

今期はオミクロン株の感染拡大によるまん延防止等重点措置の適用に伴い個人消費の悪化等が見られることから、3期続いた回復基調が減速し足踏み状態となった。業況判断DI（季節調整済、「良い」企業割合－「悪い」企業割合）は、全体で-27.3（前期は-26.7）と前期に比べマイナス0.6ポイントとなった。

来期は、措置解除後の消費拡大を期待するものの、ウクライナ情勢の行方次第では、資源・エネルギー価格の高騰や物価上昇により景気が下振れする懸念がある。

	前 期	今 期	増 減	来 期 予 想	今期との増減
製 造 業	-28.6	-27.2	1.4	-23.8	3.4
卸 売 業	-29.6	-30.6	-1.0	-25.9	4.7
小 売 業	-37.2	-37.3	-0.1	-32.3	5.0
サ ー ビ ス	-28.6	-30.2	-1.6	-25.6	4.6
建 設 業	-11.4	-15.0	-3.6	-12.7	2.3
不 動 産 業	-9.5	-13.5	-4.0	-12.6	0.9
総 合	-26.7	-27.3	-0.6	-23.6	3.7

<製造業>

化学工業や食料品を中心に需要の回復が見られ、業況は4期連続の改善となった。売上額・受注残は前期並の水準で、収益はわずかに減少した。価格面では原材料価格は世界的な高価格に伴い更に上昇を強め、販売価格も上昇に転じた。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「原材料高」の順となり、重点経営施策の上位2位も前期同様に「販路を広げる」、「経費を節減する」と続いている。

来期の業況は引続き改善すると予想するも、最近の円安や国際情勢次第では、資源高や原材料調達滞りの遅れなどが尾を引き、下振れする懸念がある。

<卸売業>

機械器具において回復傾向が続いたものの、化学製品、食料品・飲料品、繊維・衣服等が仕入価格の上昇による調達品の不足や売上額の減少で悪化した。業況は収益逼迫の影響で5期連続の改善とはならず、前期並の水準にとどまった。価格面では原材料不足の影響から仕入価格・販売価格とも一段と上昇傾向を強めた。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」の順となり、重点経営施策の上位2位も前期同様に「販路を広げる」、「経費を節減する」の順となった。

来期の業況は改善を見込んでいるものの、原材料高や原材料等の仕入価格高騰の影響次第では改善度合いが抑制される懸念がある。

<小売業>

まん延防止等重点措置に伴う個人消費の低迷により、繊維・衣服・身の回り品、飲食店の需要が落ち込み、業況の回復は進まず足踏み状態となった。売上額・収益においてはやや落ち込み、価格面では仕入価格は上昇を強めており、販売価格も上昇に転じた。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「大型店との競争の激化」の順となり、重点経営施策の上位2位も前期同様に「経費を節減する」、「品揃えを改善する」と続いている。

来期は、まん延防止等重点措置解除後の消費拡大の期待から売上額・収益の改善を予想しており、業況も水面下ながら回復を期待している。

<サービス業>

まん延防止等重点措置の適用による行動制限を受けて、個人消費を中心に落ち込みが見られており、業況は再び悪化した。売上額・収益においても悪化を強めた。価格面では材料価格が一段と上昇を強めた影響で、料金価格も上昇に転じている。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」の順となり、重点経営施策の上位2位は「経費を節減する」、「販路を広げる」の順となった。

来期は業況の改善を期待するものの、コロナ感染状況の動向次第では下振れする懸念がある。売上額・収益においても悪化幅を縮小すると見ている。

<建設業>

資材の高騰や人手不足の影響から業況は3期連続の悪化となった。売上額・受注残・施工高・収益においても悪化傾向を強めている。価格面では材料価格は一段と上昇を強め、請負価格の上昇は前期同様落ち着いた動きで推移した。

経営上の問題点の上位2位は「材料価格の上昇」に続き、「人手不足」と「売上の停滞・減少」が同率となり、重点経営施策の上位2位は「販路を広げる」、「経費を節減する」となった。

来期の業況は若干の改善を予想するものの、建築資材の高騰・調達難や人手不足の改善等が不透明なことから、その影響次第では悪化が続く懸念もある。売上額・受注残・施工高・収益では改善が期待される。

<不動産業>

販売価格・仕入価格の上昇や地価の変動により、業況は悪化した。売上額・収益は前期並に推移した。

経営上の問題点の上位2位は「同業者間の競争の激化」と「商品物件の不足」が同率1位となり、「商品物件の高騰」が続いている。重点経営施策の上位2位は「情報力を強化する」、「販路を広げる」の順となっている。

来期の業況は今期並ながら悪化度合いを弱めて推移すると予想している。売上額・収益では改善を期待している。

[注]

○D.I (Diffusion Index ディフュージョン インデックス の略)

D.I (ディーアイ) は増加 (又は「上昇」「楽」など) したと答えた企業割合から、減少 (又は「下降」「苦しい」など) したと答えた企業割合を差し引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○ (季調済) D.I・・・本調査における D.I は季調済 D.I を使用しています。

季調済とは、期ごとに季節的な変動を繰り返す D.I を過去5年間まで遡って季節的な変動を除去して加工した D.I 値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種 (例えば小売業) ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方角をみる方法です。